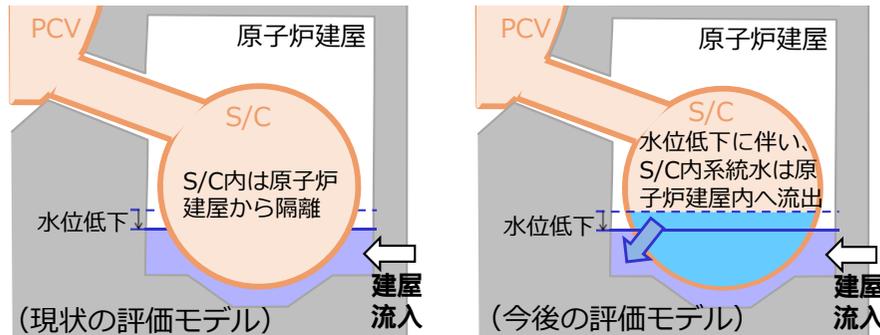


4号機サプレッションチェンバ内系統水の扱いについて

- 1～4号機の建屋内滞留水については、2020年内の建屋内滞留水の処理完了*1に向けて、順次処理を進めている。
- 4号機サプレッションチェンバ（以下S/C）内の水位が、原子炉建屋の滞留水水位と同程度で推移していることを確認したことから、原子炉建屋の水位低下に伴いS/C内系統水が原子炉建屋内へ流出していると推定*2される。
- これまでS/Cは原子炉建屋内で隔離されているものとし、S/Cから原子炉建屋内への流出量は「建屋への地下水・雨水等流入量」の一部と評価していたが、今後は、建屋へ移送した量として整理し、中長期ロードマップに定める「汚染水発生量」の一部として引き続き評価していく。

*1：1～3号機原子炉建屋を除く

*2：震災当時、4号機は第24回定期検査中であり、2011年3月11日時点ではS/C内包水の水抜きを実施していたことを確認。残留熱除去系配管のドレン弁を開にしていたことから、当該箇所を通じてS/C内系統水が流出していると推定



4号機原子炉建屋断面図

4号機原子炉建屋水位測定結果

測定日	S/C内水位 [mm]		滞留水水位 [mm]
	北側マンホール	南東側マンホール	トーラス室
2019/8/29	T.P.-1546	T.P.-1546	T.P.-1423
2019/6/19	T.P.-1206	T.P.-1266	T.P.-1238

評価方法の見直し内容

見直し箇所	S/Cからの流出量	建屋への地下水・雨水等流入量
見直し内容	4号機原子炉建屋水位低下(20cm程度)時に、40～160m ³ /週程度を建屋へ移送した量として整理	4号機原子炉建屋水位低下(20cm程度)時に、従来の評価に比べ40～160m ³ /週程度減少

「汚染水発生量」評価上の内訳の整理であり、「汚染水発生量」への影響はない